

# 太宰府市短歌ポスト第百九期入選歌

(令和三年二月二十五日)

選者 天久保富士子

ひとりでも君が隣にいた時と同じ歩幅で上る参道

愛知県 齋藤美奈

太宰府の食と文化に魅せられて直感はたらくまた来るだろうと

埼玉県 菅原天凱

初めての太宰府天満胸おどろい歴史に没る冬晴れの下

東京都 三橋拓哉

小春日の観世音寺に落葉掃く老いも若きも元気はつらつ

福岡市 白井道義

散り紅葉踏みしめ登る天開の千支の鈴振る吐く息白し

福岡市 斎藤真左樹

秋晴れの天満宮の人の波梅ヶ枝餅に今舌鼓

福岡市 田中茂樹

乗り替えて太宰府へ来るできたての梅ヶ枝餅はちよつと熱くて

福岡市 田中虹歩

あけぼのに太宰府来たのはソいけれどやることなくてひまもてあま

久留米市 安増豊史

小中学生の部

元日の暁に空眺めれば雲流れにあふ隠れし日かな

福岡市 山本仁一郎 十五才